

セミナー1 9:30～10:10

人とAIの協働による生産性革命とは

～AIエージェントと働くサイバーエージェントの実践事例～

サイバーエージェント AIエージェントG 及川 信太郎

【概要】

サイバーエージェントでは、生産性を日本一「生産性を徹底活用する」会社を目指し、生成AI技術の進化に合わせて社内での取り組みを日々加速しています。その中でも、AIエージェント領域の子会社である当社では、既に50体以上のAIエージェントが社員と協働し、生産性向上を目指しています。例えば、営業エージェントとの協働では商談前の顧客分析を効率化し、進行管理エージェントとの協働ではプロジェクト進行の質を向上させており、このように様々な職種でAIエージェントが社員をサポートしています。本セッションでは、これらの実践事例とともに、なぜサイバーエージェントグループ全体でAIエージェントの活用が進んでいるのか、その成功要因をお伝えします。具体的な活用方法と成功のポイントを学んでいただける内容です。リアルなAIエージェント活用の実例を知りたい方は、ぜひご参加ください。

【講演内容】

A I エージェントと働くこと＝生産性革命

最初はTOPからの指示。⇒A I を使え。 TOPダウンの指示でも、**しかし**

同時に**ボトムアップがないと上手く定着しない。**それを経験した。

マルチエージェント ⇒ いくつかの**特化型A I**を並行して使うのが有効。（Difyなど）

【特化型AIの例】

●（**Dify（ディファイ）**は、プログラミングの知識がなくても、誰でも簡単に生成AIアプリケーションを開発できるオープンソースのプラットフォーム。）

A I エージェントの活用。⇒**AI Worker**に展開。

●（**AI Worker**は、企業向けに設計された**AIエージェント構築プラットフォーム**で、株式会社AI Shiftが提供している。自然言語で指示を出すだけで、業務を自律的に処理するAIエージェントを構築・運用できるのが特徴。）

●（**Slack** はビジネスの基本業務を一連で行えるシステム。**人、プロセス、データ、エージェント、AI を1つの対話型インターフェイスにまとめ、組織の目標達成方法を変革する。**）

A I エージェント推進チーム ⇒ エージェント創出チーム⇒40のエージェントを作った。

●成功の秘訣は大げさにイベントを作り盛り上げる。

結果として、1730H時間を削減。これは7営業時間/人の削減につながった。

●今年はA I エージェント元年 知識がなくてもA I エージェントは作れる。

【感想】

ここで示されたような、特化型AIを使えば、作業の効率化は飛躍的に上がる。しかし、社内で使われるようになるには、色々な仕掛けが必要で、セミナーで示された種々の施策が必要だということだ。

生成AIが有効だと分かっている、うまく使いこなすには地道な取り組みが必要だ。

そして、生成AIをうまく使っている会社は更に先に進化していく。

セミナー2 11:00~11:40

生成AIの最新トレンドと業務に生かせる活用法

デジライズ 代表取締役 茶園 将裕

【講演内容】

・技術トレンド : 特化型生成AI 例えばNotta

(Nottaは、インタビューや商談、セミナーなど、あらゆる場面での音声を文字化し、ポイントを自動で抽出と要約をすることが可能なAI文字起こし・議事録サービス。)

・活用法 : 実例をプレゼンした。講演しながら、Nottaを使ってプレゼン内容を資料化していた。

・成功の秘訣 : 健全な外圧が必要

【業務効率化生成AI】

文章・資料作成系

ツール名	主な機能
ChatGPT / Gemini	メール、報告書、企画書などの自動生成・要約
Notion AI	ドキュメント作成、議事録要約、タスク整理など
Jasper	マーケティング向けのコピーライティングに特化

情報収集・検索・分析系

ツール名	主な機能
Perplexity	高精度な検索と要約で情報収集を効率化
Microsoft Copilot	WordやExcelと連携し、資料作成やデータ分析を支援
Julius AI	データ分析やグラフ生成を自動化

会議・議事録・音声処理系

ツール名	主な機能
Notta	音声の文字起こし、要約、翻訳、議事録作成
tl;dv	ZoomやGoogle Meetの議事録を自動生成
Felo Subtitles	動画の字幕生成と要約

その他の業務支援系

ツール名	主な機能
Zapier	複数ツールの連携による業務自動化
Adobe Firefly	画像生成によるデザイン業務の効率化
Midjourney	高品質なビジュアル生成でクリエイティブ支援

【感想】

実際にAIツールを使いながらのプレゼンなので説得力があった。生成AIは使いこなせば便利なツールに違いない。

使っている人と使わない人の間には歴然とした差が出るはずだ。

セミナー3 12:30～13:10

生成AIがもたらすビジネスインパクトと最新トレンド

日本マイクロソフト 小杉 靖

【概要】

本セッションでは、マイクロソフトが提供する生成AIの最新トレンドとその実際のビジネス活用事例を紹介します。生成AIは、ビジネスの効率化や新しい価値創造において重要な役割を果たしています。具体的な事例を通じて、どのように生成AIを活用してビジネスの課題を解決し、競争力を高めることができるのかを詳しく解説します。参加者は、生成AIの基本的な理解から実践的な応用まで、幅広い知識を得ることができます。

【講演内容】

2025年 Work Trender Index

フロンティア企業が誕生しつつある。こうした企業が社会を変革していく、

フェーズ1：A | アシスタントの時代

フェーズ2：A | エージェントが同僚の時代。

フェーズ3：エージェントがビジネスプロセス ワークフローを実行

エージェントを効率的に使う。

人手不足が現実になる。しかし、2028年には13億のAIエージェントが働き出す。

MSは ●1975年 Software Factory ●2025年 Agent Factory

リスク 野良AIエージェントが跋扈する。

エージェントが作り易くなると適切にエージェントを管理する必要がでてくる。

コンプライアンス セキュリティ 管理をうまくしないと問題が起きる。

マイクロソフトはAIエージェントに対するプラットフォームを構築している。

【感想】

時代はそこまで進んできているのか。進歩が速すぎて、状況が目まぐるしく変化する時代になった。まさに、トライアンドエラー、アジャイルの時代だ。
やってみて、うまく行かない時はすぐに解決策を考える。デジタル時代とはこんな時代かもしれない。

セミナー4

15：30-16：10

データ主導の企業経営に向けて ～滋賀大学が推進する産学連携～

滋賀大学 経済学部 准教授 後藤 良介

【概要】

データドリブンな意思決定が求められる現代の企業活動において、データサイエンス人材の育成は急務となっています。滋賀大学ではそのような社会の要請にいち早く対応し、日本で初めてデータサイエンス学部を設置した大学として知られるとともに、昨年度には経済学研究科に経営分析学専攻を新たに開設しました。高度で実践的なデータサイエンス教育と、企業との共同研究や学術指導を通じた産学連携を積極的に展開しています。本講演では、滋賀大学大学院における教育・研究の内容、企業からの大学院派遣や連携事例、そして企業経営におけるデータ活用の可能性について紹介し、皆様と滋賀大学との新たな連携の機会を探っていきます。

【講演内容】

DXが進まない。 活用法＝どうすれば？ 社内知見＝ITが分かる人がいない。
結局人材不足。

この課題解決のために、滋賀大学は産学連携を進めている。

阪神・阪急グループ
ニッセイ同和損保
日東電工
彦根市
能勢鋼材

企業人のDX教育 大学院での企業研究を受け入れている。
業務と技術の橋渡しできる人材がDX推進の鍵。

【感想】

当り前の話ではあるが、結局は技術も現場も分かる人がいないとDXは進まない、という結論のようだ。

大学と連携すると人材育成に補助金が出るという話には興味がわいた。政府も考えているらしい。

【総括】

【生成AIの進化が突きつける、人間の役割の再定義】

2023年、生成AIは“便利なツール”だった。プロンプトの工夫や活用テクニックが話題となり、「いかにして人がAIを使いこなすか」に注目が集まっていた。しかしその多くは、操作がうまくいかないという現場の試行錯誤に終始していた。

ところが2025年。今、話題の中心は一変している。AIは「指示待ちの道具」から、「自律的に判断し、動く主体」へと脱皮を始めている。AIエージェントの台頭は、単なる技術進化ではない。これは人間の役割そのものが「操作」から「監督」へとシフトしたことを意味する。

つまり今後、人間は“何をするか”をAIに委ね、“何のためにやるか”に集中すべき時代に突入しているのだ。

この流れは、単なる働き方改革にとどまらない。人間とAIの関係性が劇的に変化し、社会構造そのものが組み替えられていく可能性を孕んでいる。生成AIの進化とは、テクノロジーの話ではなく、文明の方向性を問い直す話なのかもしれない。

以上